

北陸麦サロン
～知っておきたい麦豆事情～
概要（質疑応答・意見交換）

令和8年2月10日開催

北陸農政局
生産部生産振興課

生産者・実需者に対する質疑応答

【生産者】株式会社アグリとくみつ 大岸氏（石川県白山市）

- サブソイラーの深さは？額縁明渠とのつなぎはどう接続しているか？
→深い方が理想だが実際は20～25cm程度。サブソイラー単体でも排水効果が高いため、接続していない。
- 作付けに適した圃場を選択しているとのことだが、何をしても排水不良となるほ場では畑作を続けられるのか？
→排水対策を徹底することが前提。それでも排水不良なら選択しない。

【実需者】新潟県醤油協業組合 佐田氏（新潟県長岡市）

- 新潟県で麦を拡大する上での課題は？
→収穫が遅い麦を作るものではないとの意識があるため、意識改革が必要。近年は徐々に栽培実績が増えている。
また、小麦はアレルギーの問題があるため、コンタミ防止のために専用機等を検討すべき。
- 醤油の原料として小麦の品質面で、タンパク含量以外に求められるものは？
→特にない。パンは古い小麦だと膨らまないことがあるが、醤油は特に問題ないため古いものも有効活用できる。

実需者に対する質疑応答

【実需者】横井チョコレート株式会社 伊藤氏

- ふくこむぎについて、他県産麦や外国産麦と比べてどの部分に優位性があると評価しているか？
→もちもちとした食感と香ばしい風味が濃く出る点が高評価につながっている。
- 麦チョコ原料としての大麦に品質面で求める点はあるか？
→粒が揃っていれば特に問題ない。

【研究機関】農研機構東北農業研究センター 池永氏

- 夏黄金はゆきちからより耐雪性がやや弱いことが示唆されているが、北陸（平野部）なら問題なく栽培できるか？
→北陸各県の試験場で栽培実証をしているが、特に問題なく栽培できている。平地であれば支障はない。

意見交換

(1) 小麦「夏黄金」の生産拡大の可能性について

【生産者】株式会社アグリとくみつ 大岸氏（石川県白山市）

- 夏黄金の生産について
→栽培を始めて2年目。初年は大麦栽培を参考にして無事に収穫できた。

【実需者】新潟県醤油協業組合 佐田氏（新潟県長岡市）

- 実需者の立場からの夏黄金について
→タンパクが高い点を有望視している。一方でゆきちからより耐雪性はやや弱いので、適地での栽培拡大が進むことを願っている。

【研究機関】農研機構東北農業研究センター 池永氏

- 生産・実需者の発言を踏まえ、育成機関からのコメント
→品種の普及には、量と質の安定が重要であるため、気候や土壌に応じた生産が必要。各県や中日本農研の協力もあり実証が進んでおり、宮城・福島では栽培マニュアルもあり、知見が蓄積されつつある。農研機構としても各種専門的立場から現地に赴き、アドバイスさせていただきたい。パン用を見据えて育種したが、学校給食、ピザ、お菓子や醤油等、他用途にも需要がありニーズ拡大を感じている。

意見交換

(2) 麦栽培に活用できるスマート農業技術について

【農機メーカー】各社

- スマート農業の普及にあたりスマート農機導入以外に必要なことについて
→ (各社) ほ場の大区画化、集積・集約とRTK基地局の設置が必要。

【農機メーカー】株式会社クボタ

- 新規農業者等の経験が浅い農業者が作業しても効果を感じやすい技術は何か？
→ 自動操舵に加えて、ドローンを用いた栽培管理作業も若年層に広まっている。
さらに、収量センサー付きコンバインやドローン、衛星リモコン等のデータを活用して今後の施肥管理に反映することで安定生産等に繋がると考える。

【農機メーカー】ヤンマーアグリジャパン株式会社

- 「直進アシスト+スリップローラーシーダー、搭載型シーダー」の組み合わせは、麦播種作業で耕うん・砕土・鎮圧・施肥・播種を一工程で行えるほか、水稻の乾田直播や大豆の播種作業などにも使用でき、農機の有効利用、費用対効果、操作習得などにプラスの効果が期待できる。

【農機メーカー】ISEKI Japan 関西中部カンパニー

- 自動操舵システムはどのような地域や経営体で導入が進んでいるのか？
→ 北陸3県含め、近隣の東海や関西でも普及が進んでいる。トラクターの利用率が高い方ほど導入効果を感じやすい。これまでは30~40ha規模での導入だったが、価格が安くなり10ha規模での導入事例も増加している。

(2) 麦栽培に活用できるスマート農業技術について

【農機メーカー】各社

- スマート農業の今後の展望について
 - (クボタ) 麦の場合、播種精度の向上がその後の作業の効率化にも繋がっており、メリットは高い。また、可変施肥による収量向上は期待される項目。加えて、農業経営の複合化や多角化の際は、スマート農業の導入が重要。
 - (ISEKI) 自動操舵システムの普及が進むと考える。加えてザルビオ等を連携した可変施肥やセクションコントロールを伴う施肥の普及が期待される。
 - (ヤンマー) 自動操舵システムなど省力化技術と併せて、センシングデータを活用した効果的・効率的技術(可変施肥・防除など)の普及が重要。
- 自動操舵システムが安くなっているという話はあるが、そうはいつでも高額なので、投資額や減価償却を考慮するとどのくらいで採算がとれるのか？
 - (クボタ) 具体的には不明だが、麦だけでなく経営全体で採算をとるよう判断する必要があると考える。
 - (ISEKI) 経済的に費用対効果が高いことも重要だが、作業に係る負担の軽減といった目に見えない効果への期待が購買に繋がっているようにも感じる。
 - (ヤンマー) 経営全体(複数品目)で効果的な活用を考えること、適切に製品メンテナンスを行うことが重要であると考えます。

(3) 北陸産麦の需要拡大に向けた取組について

【実需者】 横井チョコレート株式会社 伊藤氏

- 消費者ニーズを踏まえた商品開発等、麦の消費拡大に向け工夫している取組は？
→当社は小麦・大麦ともOEM等を含めた多様な商品展開を契機とし、需要喚起ができるので、引き続き安定的に供給してほしい。

(4) その他

- (精麦実需者) 大麦についても需要が堅調な中で供給が減少している状況であるため、大麦の安定供給をお願いしたい。また、小麦はアレルギーの問題もあるため、コンタミには注意してほしい。